

自分スタイルの確立！ 通信制

失敗も悔しさも、未来への種になる - 令和6年度 終業式より -

～ 等身大の言葉とともに、春へ向かう ～

今年度の締めくくりとなる全日制課程の終業式が行われました。
それに先立ち、各分野で努力を重ねた生徒たちが表彰されました。

- 学力優等賞 - 1ヶ年皆勤賞
- 小出杯優勝: 男子バレー部 (強豪校11校が参加した中で見事優勝!)
- 東洋大学「学生百人一首」入選 (全国58,839首中、わずか15首に選出!)
- 各種検定合格 (簿記・情報処理・実用英語)

それぞれの成果の裏には、地道な努力と挑戦の積み重ねがありました。
受賞された皆さん、本当におめでとうございます!



生徒代表からの“振り返りと抱負” - 素直な言葉が心に響く -

終業式では、各クラスの代表生徒がこの1年間を振り返り、来年度への想いを語ってくれました。

ある2年男子生徒は、自身の部活動や学習について「ミスが多かった」「無計画だった」と正直に反省しつつ、「どんな結果でも悔いが残らないように頑張りたい」と前を向きました。



また、学級委員長を務めた別の2年男子生徒は、「クラスをうまくまとめられなかった」「行事で引っ張り切れなかった」と振り返りながら、「最後の1年は、反省を生かしてリーダーシップを発揮し、行事を成功させたい」と力強く語りました。

1年生たちの声も印象的でした。

- 「入学前は友達ができるか不安だったけど、いろんな人と仲良くなれてよかった」(1年女子)
- 「赤点を取った教科もあったけど、来年は無くしたい。行事ではみんなで頑張れて充実した学校生活だった」(1年女子)
- 「紫苑祭を通して、個性豊かな仲間と少しずつ絆を築けた。その絆を生かして、来年度も一緒に成長したい」(1年男子)

それぞれの言葉には、失敗と成長、喜びと決意が詰まっており、会場に静かな感動をもたらしました。

校長講話 「“うまくいかなかったこと”が、未来の羅針盤になる」

生徒の振り返りを受けて、校長先生からはこんなメッセージが贈られました。

うまくいかなかったことこそ、次の地図を描く材料になります。
失敗や葛藤、空回り——不恰好に見える経験の中に、
未来の方向を指し示す“羅針盤”が隠されています。
自分自身と丁寧に向きあって、この春を過ごしてほしい。

春は“準備”の季節です。

来年度、新入生が登校してくるその日、あなたが先輩として自信をもって迎えらるるよう。

それぞれの春休みが、実り多き時間になることを願っています。

当日は離任式も行われ、お世話になった先生方に感謝の気持ちを伝えました。



さむい

あつい!



時も



時も... 1年間お疲れ様でした!

早いものでアツという間に年度末を迎えました。

そこで、1年間にわたって校門指導に当たっていた先生方にインタビュー!



毎朝の「おはよう」がつなぐ心

～ 生徒・小学生・地域を結ぶ朝の登校指導の1年を振り返って～



生徒指導部長として、毎朝校門前に立ち続けた五十川先生。

この1年、スクールゾーンの安全確保とあいさつ運動を兼ねて朝の指導を行ってきました。はじめはぎこちなかった生徒や小学生とのやり取りも、日を重ねるごとに温かいコミュニケーションへと変化。

「先生、今日いないの?」と声をかけられるほど、子どもたちにとって先生の存在が身近なものになっていきました。地域の大人や小学校との連携も強まり、朝の登校指導は安全だけでなく、心のつながりを育む大切な時間となりました。

「こんにちは」で始まる元気な一日

～ 黒川先生が語る、笑顔と挨拶が生んだ心のキャッチボール～



教員1年目に「挨拶はさせるのではなく、自分からするもの」と先輩に教わった黒川先生。それ以来、どこに赴任してもこの教えを大切にしてきました。

高校に異動後は少し遠ざかっていたものの、五十川先生の誘いで再び朝の挨拶運動に参加。生徒や小学生に笑顔で声をかけると、倍以上の元気な挨拶が返ってくる——そのやり取りが、日々の励みとなりました。

挨拶を通じて会話も増え、心の距離もぐっと縮まったこの1年。「来年度もぜひ続けたい」と語る姿に、教育の原点がにじみます。

挨拶は学校の「名刺」になる

～ 蔵元先生が語る、朝の一声がつなぐ地域と学校の未来～



一昨年1月から朝の挨拶運動に加わった蔵元先生。「生徒との距離を縮めるには、挨拶が一番のコミュニケーション」との思いから毎朝校門に立ち続けました。

挨拶はやがて生徒から自然に返され、地域の小学生、中学生、住民の方々へと広がっていきました。「自分が元気をもらう存在になった」と振り返るその言葉には、心の交流がにじみます。挨拶が学校のイメージアップにもつながり、地域全体の活性化に寄与する可能性を信じ、今後も力を入れていきたいと語ります。

毎朝の「おはよう」と「こんにちは」。その一言が、人と人との心をつなぎ、学校と地域の信頼を築いてきました。三者三様の思いを胸に立ち続けた先生方の姿から、挨拶は単なるマナーではなく、未来をひらくコミュニケーションだと気づかされます。